

平成28年度 第1回 富田林市総合計画フォローアップ会議 会議録概要

◆日 時：平成28年9月12日（月）（13：30～16：30）

◆場 所：富田林市役所 2階 201会議室

◆出席者：吉川委員（座長）、前川委員、湯口委員

欠席者：大西委員

事務局：渡部、中谷、塚本

発言者	発言概要
事務局	<p>■はじめに</p> <p>■フォローアップ会議設置要綱により、会議の役割と組織の概要について説明。</p> <p>■委員紹介 吉川委員、大西委員（欠席）、前川委員、湯口委員</p> <p>■事務局紹介 渡部、中谷、塚本</p> <p>■座長・職務代理の選出 要綱第4条の規定により互選により座長を選出願う。 ⇒吉川委員を座長に選出。 座長の指名により、職務代理に前川委員を選出。</p> <p>～座長による議事進行～</p>
座長	<p>■会議の公開について （事務局より「フォローアップ会議設置要綱」及び「会議の公開に関する指針」について説明後） ⇒「公開」とすることに決定。</p>
座長	<p>■会議の傍聴人数について （事務局より案の説明後） ⇒会議の規模を勘案し、5名程度とすることを決定。</p>
座長	<p>■議事録の取扱いについて （事務局より案の説明後） ⇒ ・議事録の作成は事務局で行う。 ・議事録は委員の発言内容の要約筆記としてまとめ、次の会議までに郵送にて送付する。 ・発言者氏名はそのまま記載するのではなく、「座長」、「委員」、「事務局」という職名で表記する。 ・議事録は公開することを決定。</p>

座長	<p>■会議のルールについて (事務局から案の説明後)</p> <p>⇒・1回の会議は、最大3時間とし、会議運営が円滑になるように努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言は座長の許可を必要とする。 ・資料配布は座長の許可を必要とする。 ・事務局からの資料は、事前に配布する。 ・会議の冒頭で、前回「会議録」の確認と承認を行う。 ・評決事項は座長を除く委員の多数決による。ただし、賛否同数の場合には座長が決する。 <p>ことを決定。</p>
座長	<p>■会議の開催日程と回数について (事務局から案の説明後)</p> <p>⇒本日の第1回会議を含め、10月5日(水)に第2回、10月6日(木)に第3回、10月中に最終のまとめと市長への報告会を兼ねた第4回の、計4回を開催することを決定。</p>
座長	<p>■会議の進め方について</p> <p>会議の進め方について、事務局から提案をお願いします。</p>
事務局	<p>今年度の会議の進め方については、次の3つの柱で進めていただきたいと思いますと考えている。1点目は、評価の継続性という観点から、これまでのフォローアップ会議で積み上げてきた資料の点検を継続して行うこと。2点目は、政策推進課において、平成26年度に引き続き、第4次総合計画の全計画事業の進捗状況について調査を行ったため、その結果を報告させていただき、今年度が第4次総合計画の最終年次となっていることを踏まえ、第4次総合計画全体の進捗状況についての点検を行うこと。3点目は、今年度が第4次総合計画の最終年次となっていること、今年度「新たな総合ビジョン」の策定に着手していることを踏まえ、これまでのフォローアップ会議の議論の振り返りを行い、フォローアップ会議として、「新たな総合ビジョン」に継承したい・継承すべきと考えるポイントなどをご議論いただくことを提案したい。</p> <p>スケジュール感としては、本日(第1回)に1点目と2点目を、第2回・第3回で3点目をご議論いただきたい。</p>
座長	<p>事務局からの提案を受けて、今年度の進め方について、何か意見はあるか。</p>
委員	<p>事務局からの提案内容で良いと思うが、これまでもフォローアップ会議として次期総合計画の必要性を提案してきた中で、新たな総合ビジョンに向けた取組みがスタートしているということであるため、策定するに至った経過なども含めて、現段階での状況などを教えていただきたい。</p>
座長	<p>各委員のご意見も踏まえつつ、今年の会議の進め方は次の3つの柱で行う。1点目</p>

	<p>が、これまでのフォローアップ会議で積み上げてきた資料の検証を行うこと。2点目が、政策推進課が取りまとめた第4次総合計画の全計画事業の進捗状況調査結果に基づき、計画全体の進捗状況についての点検を行うこと。3点目が、これまでのフォローアップ会議の議論を振り返りながら、フォローアップ会議として、「新たな総合ビジョン」に継承したい・継承すべきと考えるポイントなどを議論すること。</p> <p>また、これとあわせて新たな総合ビジョンの策定に至った経過も含めた、現段階での状況を事務局から報告いただく。</p> <p>スケジュールとしては、本日第1回目で例年の資料の検証と、全計画事業の進捗状況調査結果資料の検証を行う。第2回目・第3回目はフォローアップ会議として、「新たな総合ビジョン」に継承したい・継承すべきと考えるポイントなどを議論し、まとめを行うことを基本に、進行状況により適宜判断して進める。</p> <p>以上のような進め方でどうか。</p> <p>(各委員了承)</p> <p>座長 それでは、はじめに新たな総合ビジョンの策定に至った経過も含めた、現段階での状況について説明をお願いしたい。</p> <p>事務局 新たな総合ビジョンについての説明の前に、本市が昨年度策定した人口ビジョンの内容について説明させていただく。</p> <p> 平成26年に施行されたまち・ひと・しごと創生法に基づき、本市において平成72年までの人口推計を含めた人口ビジョンを策定した。</p> <p> 本市の人口動態としては、平成14年の126,400人をピークに、以降減少を続けており、平成27年では115,601人と、1万人以上の人口が減少している。さらに、人口構成比を見ると、少子高齢化も進行している。</p> <p> 現状の傾向が今後も続くことを想定した人口推計の結果としては、平成72年には総人口が60,660人とおよそ半減するほか、年少人口比率が8.0%、老年人口比率が43.8%と少子高齢化もさらに進行する見込みとなっている。</p> <p> 人口減少・少子高齢化の要因としては、一人の女性が生涯に産む子どもの数を表す指数である合計特殊出生率が全国平均と比較しても低く、若い世代の転出超過も顕在化していることが要因と考えられる。</p> <p> こうした傾向が続くと、市民生活・地域経済・行政経営にも大きな影響を与えることになる。</p> <p> また、平成52年までに合計特殊出生率が2.07に改善し、社会減がないと仮定した将来人口シミュレーションを実施したところ、平成72年に60,660人まで減少が予測される人口が、93,624人を維持可能であることが見込まれているが、人口減少が解消するには至らない結果となった。</p> <p> こうしたことを踏まえ、人口減少の抑制や人口構成の適正化に向けて積極的に取り組みを進めることとあわせ、一定の人口減少による様々な影響に計画的に対応していくことが必要と位置付けた。</p>
--	---

委員	大阪府下においても、特に南河内地区において人口減少が進んでいると聞いていたが、人口推計の結果を聞いて驚いている。
委員	人口減少・少子高齢化による影響について、もう少し具体的に教えてほしい。
事務局	人口減少・少子高齢化による影響については、市民生活への影響の部分では、たとえば地域コミュニティの機能低下や空き家の増加など、地域経済への影響の部分では、消費市場の縮小やそれに伴う事業者の経営悪化、またこのことがさらなる人口減少に繋がり、悪循環を発生させることになる。行政経営への影響の部分では、市税収入の減少や社会保障経費の増加に伴う市財政の悪化などがある。
委員	人口構成の適正化とあったが、この部分についても、もう少し具体的に教えてほしい。
事務局	本市の人口構成としては、年少人口及び生産年齢人口の中でも特に20～30歳代の年代別人口が少なくなっていることが特徴となっており、将来人口はこうした世代の人口規模がベースになることから、こうした年代の人口を増加させることで、将来にわたって一定の人口規模が維持可能となり、これに向けた取組みが人口構成の適正化に向けた取組みと言えるものと考えている。
座長	第4次総合計画を策定した際の推計結果よりも、早いスピードで人口減少が進行していることは、反省として捉えるべきと考える。
事務局	<p>続いて、新たな総合ビジョンについて説明をさせていただく。</p> <p>平成23年の地方自治法改正に伴い、市町村の総合計画の策定義務が撤廃となり、策定の要否は各市町村の判断に委ねられることとなった。</p> <p>本市としては、人口減少や少子高齢化の急速な進行、地方分権の進展、長引く経済の低迷など、本市を取り巻く社会経済情勢がめまぐるしく変化している中、複雑化・多様化する行政課題へ対応していくため、今後においても長期的な視点でまちづくりを総合的・計画的に進めていく必要があるとの認識から、総合ビジョン策定条例を制定し、第4次総合計画の取組みを継承しつつ、人口減少等の新たな行政課題への対応も含め、平成29年度以降のまちづくりを総合的・計画的に進めるための指針として、新たな総合ビジョンを策定することとなった。</p> <p>現在の進捗状況としては、社会経済指標等に基づき客観的なデータから現状と課題を分析する基礎調査、生活者の視点から見た現状と課題を把握するための、市民3,000人を対象としたアンケート調査、より幅広い市民の意向を把握するための市民ワークショップを無作為抽出による市民・大学生・市職員の参加により、全4回実施した。また、学識経験者や関係団体からのヒアリング調査を実施し、行政課題の明確化に向けて作業を進めている。</p>

	<p>今後は、この内容を基に、総合ビジョンの中身を作っていく予定となっている。</p> <p>こうしたことから、今年度のフォローアップ会議においては、新たな総合ビジョンに継承したい・継承すべきと考えるポイントなどを、ご議論いただき、その結果を新たな総合ビジョンの策定に繋げていきたいと考えている。</p>
座長	計画は今年度中に策定することになるのか。
事務局	今年度中の策定を予定している。
委員	策定過程への市議会の関与はどうか。
事務局	新たな総合ビジョンについては、審議会を設けずに策定を進めており、市議会においては特別委員会が設置され、この中でご議論いただいている。また最終的には議決をいただく予定としている。
委員	新たな総合ビジョンの策定過程においても市民参加の考え方は大事にしてほしいと感じている。第4次総合計画を策定した際の、市民懇談会のメンバーも参画しているのか。
事務局	<p>市民懇談会のメンバーとしての新たな総合ビジョン策定過程への参画は現状考えていない。</p> <p>今回は、新たに無作為抽出による市民ワークショップを実施し、より幅広く市民の意向を把握する機会を設けた。</p>
委員	市民懇談会は10年前に開催されたものであり、新たな総合ビジョンの策定には、今の若い世代に関わっていただくことが良いと感じる。
事務局	<p>今回の市民ワークショップは、全4回を全て日曜日に開催したこともあり、若い世代も多く参加していただくことができた。</p> <p>またグループワークでは、幅広い年代の方々に、同じテーブルで議論をしていただいたこともあり、それぞれの年代が感じる課題や考え方を共有できたことも成果と考えている。</p>
委員	市民ワークショップでは、どのようなアイデアが出されたのか。
事務局	各グループでテーマを決めて検討したこともあり、テーマ毎に様々な意見は出ていたが、共通して言えることは、取組みの担い手に関する考え方が、行政主導ではなく、市民が主体となって取組むようなものが多かった。
委員	新たな総合ビジョンにおいても、市民のまちづくりへの参加機会をどのように担保していくのが重要と考える。

事務局	<p>そのあたりの点も含めて、今後のフォローアップ会議の議論の中で、深めていただきたい。</p>
	<p>～資料説明～</p>
事務局	<p>■フォローアップシート①（資料2）について説明</p> <p>基本計画第1章で提唱している3つの「市民参加のしくみづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① “さまざまな立場の市民が行政活動に参加できるしくみづくり” ② “行政職員の市民意識の理解を促すしくみづくり” ③ “市民と行政の協働を推進するしくみづくり” <p>の年度別の取組み状況をまとめた表で、前回提示させていただいた資料に、平成27年度の取組み、平成28年度の予定を追加している。</p> <p>（平成27年度・平成28年度の新たな取組みの例示）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1節 分類番号3番『新たな総合ビジョン策定に係る市民ワークショップの検討（27年度）・実施（28年度）』『金剛地区再生指針策定に係る意見交換会の検討（27年度）・実施（28年度）』 ・第1節 分類番号6番『男女共同参画についてのアンケート（27年度）』『選挙についてのアンケート（28年度）』 ・第1節 分類番号7番『地域福祉計画策定に係る地区別交流会（28年度）』 ・第1節 分類番号10番『総合防災訓練の実施（27年度）』 ・第2節 分類番号19番『毎月1度の職員清掃の継続実施（27・28年度）』 ・第2節 分類番号25番『フォローアップ会議委員と各課との意見交換会の継続実施（27年度）』『新たな総合ビジョン策定に係る市民ワークショップへの職員参加（28年度）』 ・第3節 分類番号27番『富田林市生活支援等サービス体制整備協議体の設置（28年度）』 <p>を説明。これまで未着手であった部分を含めて、少しずつではあるが、市民参加の取組みは増えている。</p>
委員	<p>第2節 分類番号19番に関して、市職員の参加状況はどうか。</p>
事務局	<p>動員という形ではなく、有志による自由参加となっているが、多くの職員が自主的に参加している。</p>
委員	<p>どこを清掃しているのか。</p>
事務局	<p>市庁舎周辺を清掃している。</p>

委員	石川清掃の認知度は高いが、このような活動を知らない市民が多いように思う。
委員	行政から積極的に取組みをPRするのは難しいかもしれないが、庁舎は市民の財産でもあり、こうした取組みが市民に周知されると良い。
座長	フォローアップシート①の運用ルールについての話になるが、経年で比較して記載がなくなったものは、取組みが終了したことが確認できるが、たとえば第1節 分類番号15番の平成27年度取組みとして、ポータルサイトの開設などが記載されているが、仮に当該サイトが閉鎖となった場合、そのことを確認できない書き方のルールになっている。
事務局	定量的な管理をしていけば、把握が可能になるとも考えられるが、現状の運用としては、取組みに継続性があるものは経年的に記載をし、ポータルサイトの開設など、一過性の取組みは当該年度にのみ記載をしている。
座長	今後もフォローアップシート①を継続していくならば、このあたりは課題とも考える。 その他、第3節 分類番号29番のアドプト・ロード・プログラムなどは、数値も記載できるように感じるが、取組みは増えているのか。
事務局	別資料になるが、資料4「各種数値データ一覧表」に団体数の記載があり、平成27年度現在では5団体と、徐々に団体数が増えている。
委員	フォローアップシート①で、経年的な変化を見ていると、全体的な印象となるが、取組みが徐々に増えてきていると感じる。
座長	フォローアップシート①のような資料を整備してきたことが成果であると考える。
委員	3つのしくみづくりの中では、3節“市民と行政の協働を推進するしくみづくり”に関する取組みが、他の取組みと比べて弱いように感じるが、今後においても、重要な視点と考えるので、新たな総合ビジョンでも大事にしてほしい。
事務局	<p>■フォローアップシート②（資料3）について説明</p> <p>“縦糸”である施策ごとの個別事業の実施状況と、各事業に関連する「3つのしくみづくり」の状況を○×で表して取りまとめたシート。また、この資料は、施策の事務事業ごとの、予算と決算の額を載せている。</p> <p>また、「3つのしくみづくり」については、「○×」を記載している。経年的にまとめているので、昨年までと比較して進んだものが分かる。</p>
委員	前年度と比較して、3つの市民参加のしくみづくりの評価（○×）が、○から×のように、後退したようなものは見受けられない。

委員	<p>予算の部分も含めて整理されている表で、大きく変化はないようにも思うが、市全体の家計簿のようなものとも考えられ、他の自治体ではここまでの情報をオープンにできていないように思う。情報は公開されているとはいえ、市民がより関心を持つことができるよう、啓発なども考えてほしい。</p> <p>市民がこの資料を見れば、さらに深堀りをしたくなり、他の資料も含めて有効活用されるのではと考える。</p> <p>第4次総合計画では、予算の議論ができなかったのが反省でもあるので、新たな総合ビジョンにおいては、夢をもちながらも、その裏付けとしての予算の議論がされることを期待したい。</p>
事務局	<p>■各種数値データ一覧表（資料4）について説明</p> <p>施策別に、関連する個別分類項目について、人数や回数、パーセンテージなどの指数を用いて、その推移を統計として整理。</p> <p>⇒数値の増減によって一概に良し悪しを判断できるものではないが、数値の把握・確認は、総合計画の進捗管理においては大切な視点であり、毎年、データの積み上げを継続している。</p>
事務局	<p>■平成27年度 市民アンケート（重要度・満足度）（資料5）及び市民アンケート調査結果ランキング（資料6）について説明</p> <p>平成19年度から設問項目を固定して実施している市民アンケート（満足度・重要度）について、平成27年度の調査結果、これまでの市民アンケートをランキング形式でまとめたものをそれぞれ資料として整理している。</p>
委員	<p>満足度も重要だが、一方で「やや不満」「とても不満」を合計すると30%を超えている項目もあり、こうした点に着目する観点も必要と考える。</p>
座長	<p>単純集計だけでなく、集計方法に工夫を加えれば、より詳細な傾向が見えてくるように感じるが、昨年度も確認したが、回答者の属性なども尋ねているのか。</p>
事務局	<p>アンケートの基礎項目として、男女の別や年齢を確認しているので、クロス集計は可能である。</p>
事務局	<p>■平成27年度事務事業評価集計表（資料7）について説明</p> <p>行政評価シートの中で設定している成果指標について、その予定と実績から進捗状況を確認する資料。</p>
事務局	<p>■平成27年度 事務事業の施策別分類（資料8）について説明</p> <p>全体の事務事業と、そのうちの行政評価対象事業、行政評価実施事業等の情報について整理した資料。</p> <p>【平成27年度】</p>

<p>事務局</p>	<p>評価対象外を含めた全事業⇒945事業 評価対象事業⇒643事業 評価シート作成事業⇒303事業 昨年と比較して、新たに追加された事業と終了した事業を差引して4事業増えている。</p> <p>■事務事業評価表（当日配布）について説明</p> <p>より総合的な視点で評価を行うという観点から、平成25年度から19事業を対象を拡充した事務事業評価表を用いて点検してきたが、第2節第2項「小学校耐震及び補強事業」については、平成26年度に事業が終了しているため、今年度の会議では、18事業の事務事業評価表を用いて点検する。</p> <p>（個票を配布）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1節第1項「平和のつどい」 ・第1節第2項「人権文化センター事業（講座事業）」 ・第1節第3項「男女共同参画推進事務」 ・第2節第1項「広報誌発行事業」 ・第3節第1項「保育所職員研修事業」 ・第3節第2項「生涯学習推進事業」 ・第4節第1項「救急救命士の育成事業」 ・第4節第2項「がん予防対策事業」 ・第4節第3項「地域生活支援事業」 ・第4節第4項「保健事業（特定健康診査）」 ・第5節第1項「公害対策事業」 ・第5節第2項「公園管理事業」 ・第6節第1項「防犯対策事業」 ・第6節第2項「道路維持補修事業」 ・第6節第3項「（仮称）若松地区公共施設再整備事業」 ・第7節第1項「下排水路管理事業」 ・第7節第2項「商業活性化総合支援事業」 ・第7節第3項「観光振興事業」 <p>事務事業評価表の見方についての説明。総合計画の施策体系、事務事業名、区分ごとの評価については以下の指標を使っている。</p> <p>評価ランク：事業全体について、改善策を取り入れているかどうか。A：改善策を取り入れた、B：従来通り、C：事業縮等で、目標設定を下げた場合。</p> <p>有効性：成果指標・活動指標について、ともに改善に向けた数値を設定しているかどうか。A：改善に向けた数値を設定している、B：従来通り、C：事業縮小などで、現状よりも低い目標を設定している。</p> <p>効率性：費用対効果について、改善策を取り入れているかどうか。A：改善策を取り入れている、B：従来通り、C：以前よりも費用対効果が低い方法を予定している。</p> <p>必要性：市民にとっての必要性が増しているかどうか。A：必要性が増している、</p>
------------	---

	<p>B：従来通り、C：必要性はなくなってきている。</p> <p>公平性：対象となる市民の数を増やす、受益者負担を取り入れるなど、公平性を高めるような改善策を取り入れているかどうか。A：改善策を取り入れている、B：従来通り、C:対象となる市民の数を減らした、また受益者負担をなくした。</p> <p>対象については、実施主体と合わせて3つの市民参加のしくみのどれに該当するかを記入するよう統一している。</p> <p>成果指標については、予定と実績を記入している（1つまで）。</p> <p>活動指標については、予定と実績を記入している（3つまで）。</p> <p>人件費については、当該事業に係る正職員の人件費を配賦・賦課することによって、年間の人件費を算出している。</p> <p>事務事業評価表は、行政内部で活用されており、公開を前提としていない性質上の問題もあり、昨年と同様に表現という点では、市民目線で書かれているとは言い難い部分はある。しかしながら、評価シートへの記載の充実という点では、第2章第1節第3項「男女共同参画推進事務」において、活動指標毎に今後の取組みに向けた記載が行われるような記載のさらなるレベルアップも見られる。</p> <p>点検した事業を見る限り、基本計画の縦系部分は着実に進展しているものと考え</p> <p>る。</p> <p>委員 より具体的に業務を進めていくために、シートが活用されているようにも見受けられ、こうした取組みが、市民にとっても良い結果をもたらすものとなると感じる。</p> <p>また、こうした取組みが全庁的に広まっていけば良いと考える。</p> <p>事務局 事務事業評価の取組みの充実は、今後も重要であると感じている。取組みの意義や、指標設定の考え方、目標値と実績値に差が出た場合の捉え方など、この間フォローアップ会議からのご意見もいただきながら進めてきた経過もあるため、こうしたことを今後活かしていきたいと考えている。</p> <p>～休憩～</p> <p>事務局 ■第4次富田林市総合計画 取組み状況の総括について（当日配布資料）</p> <p>第4次総合計画の計画期間中の全事業について、①市民参加の3つの取組み、②事業の進捗状況、③今後の重要度、④今後の方向性について、整理をさせていただいた資料となる。平成26年度にも同様の調査を実施し、フォローアップ会議にも提示させていただいたが、今年度新規事業の追加と時点修正を行わせていただき、再度整理し直した。</p>
--	--

- ① 市民参加の取組みについては、3つのしくみづくりについて、それぞれ「A：十分取組めた」「B：取組んでいる」「C：取組むことができていない」「D：施策の性質にそぐわないため取組むことができない」の4段階で評価した。グラフについては、Dの数値を除いたものを母数として、作成している。
- ② 進捗状況については、「A：実施しており、計画の目標を達成済み(見込み)」「B：実施中」「C：今後(平成28年度までに)実施する」「D：方向性変更等の理由により、実施しない」の4項目で評価した。
- ③ 今後の重要度については、「A：重要性は高い」「B：やや重要」「C：ふつう」「D：あまり重要ではない」「E：重要ではない」の5段階で評価した。
- ④ 今後の方向性では、「A：継続(維持)」「B：継続(改善)」「C：見直し(拡充)」「D：見直し(縮小)」「E：廃止」の5段階で評価した。

(資料に基づき、3つの市民参加のしくみづくり・各施策の取組み状況について説明)

3つの市民参加のしくみづくりに関して、今後に向けては、地方分権の進展や、現在の社会経済情勢を踏まえれば、市民と行政の協働は時代の希求であるとも言え、第4次総合計画に掲げた市民参加のしくみは、今後のまちづくりにおいても重要な取組みと考えられる。

今回の取組み状況の総括結果を見ると、その性質にそぐわず取組むことができない事業を除く取組み可能な事業の殆どで、市民参加の取組みが行なわれているが、その取組みは全体的に不十分と言え、今後においても市民参加の取組みを行政施策全般でより一層推進していくことが必要と考えられる。

各施策に関して、今後に向けては、今回の取組み状況の総括結果を見ると、基本計画全体では実施された事業の大半が継続して実施すべきと評価されており、また半数以上の事業が、今後の重要度が高いと評価されているが、このことは、行政事務がその性質上、住民の生活に直結しており、継続性が高いことに起因しているものと考えられる。

また、基本計画の施策大系別に見ると、実施された事業数や今後の重要度の高い事業数に施策間で大きな差があるが、このことは、第4次総合計画の計画期間中に取組んだ行政課題への対応状況の鏡であるとも言え、子育て支援、教育、防災の分野など、今後の重要度の高い事業の多い施策について、重点的に取組んでいく必要がある。

全国的に少子高齢化や人口減少の進行が課題となっている中、本市においても同様の問題が発生しており、平成27年度に実施した人口推計の結果を見ると、今後10年間で本市の人口は1万人以上減少し、平成72年には約半減することが見込まれ、高齢化率も上昇し続けることが見込まれている。

また財政面においても、市税などの自主財源の伸び悩み、社会保障経費の増加、老朽化したインフラ整備にかかる経費の増加など、依然として厳しい状況が予測される。

本市がこれまで経験したことのない課題に直面する中、今後においては、人口減少を抑制し、人口構成を適正化していくために、合計特殊出生率の回復や社会移動の抑

	<p>止に積極的に取り組む必要がある一方で、人口の変化に伴って起こるさまざまな影響を予測しながら計画的に対応していくことが必要となっている。</p> <p>こうした状況を踏まえれば、今後においては、これまで以上に効率的で効果的な行政運営が求められ、重要度に応じた取り組みの重点化をさらに進めるほか、限られた財源を有効活用するためにも、取り組みの目的や方向性を明確にし、重要度や効果の低い事業を廃止・見直しすることも含めて、選択と集中の観点から事業を実施していく必要があると考えられる。</p> <p>座長 時間の都合もあるため、この資料などを基にした計画全体の進捗の点検については、次回の議論としたい。</p> <p>また、市長への報告会を含む第4回の日程を調整していただかなければならないが、事務局の方で調整をお願いしたい。</p> <p>事務局 承知した。</p> <p>第2回及び第3回の日程等の確認をして終了。 (第2回は10月5日(水) 13:30~5階 介護保険認定審査会室で行う。 第3回は10月6日(木) 14:00~5階 政策推進課会議室で行う。)</p>
--	---